



八学大生とのサッカー交流会でドリブルする際選手⑤

欧州仕込みの技 体感

大学生らと際選手
サッカーで交流

八戸

サッカーオランダリーグ「PECズウォレ」でプレーするファン・ウェルメスケルケン際（さい）選手（27）によるサッカー交流会が16、17の両日、八戸市内で開かれた。市内の中学生や大学生が、世界で活躍するプレイヤーの技術を体感した。

際選手はオランダ出身で、オランダ人の父と日本人の母を持つ。幼少期から高校まで日本で過ごし、18歳でオランダでキャリアをスタート。U-23日本代表として国際大会に出場した経験もある。現在はオランダの貿易商社のマーケティングマネージャーも務めている。

交流会は同社と取引がある八戸市の貿易業「ロコラボ」（小清水貴子代表取締役）が主催。17日、際選手が八戸学院大学女子サッカー部員約20人と、同大サッカー場で約1時間交流した。試合形式の練習では、学生たちのプレーに「ナイス！」と声をかけながら、華麗なドリブルを見せた。

際選手は取材に「日本の女子選手の技術やしなやかな動きは世界でも戦える。海外に意識を持ちながら楽しくプレーしてほしい」と語った。際選手と2人一組でウォーミングアップをした伊藤朱音（あかね）さん（1年）は「ナイスパスと声をかけられてうれしかった。自分の技術を高めていきたい」と話した。（相澤賢斉）